

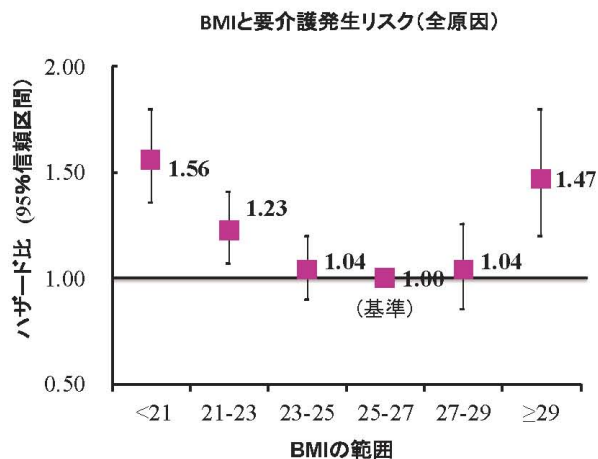
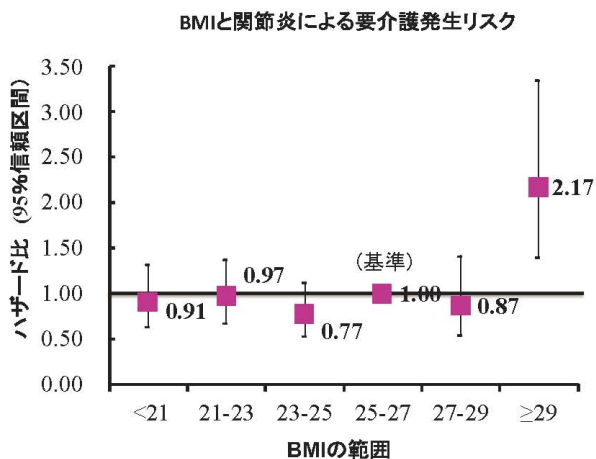
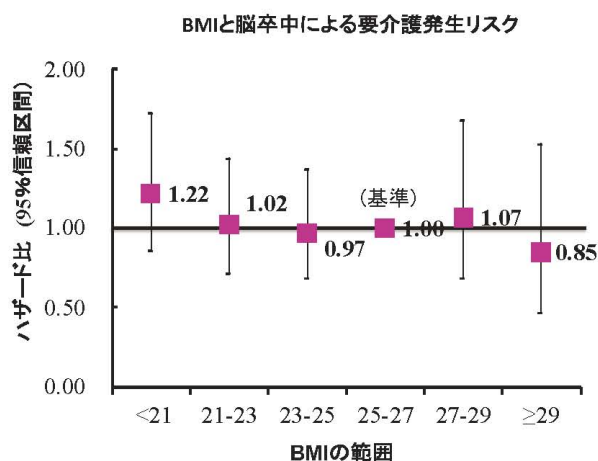
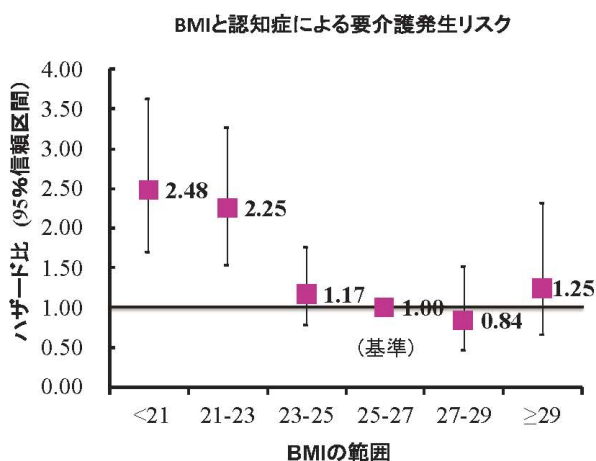
高齢者の Body mass index (BMI) と要介護発生リスクとの関連： 大崎市民コホート 2006 研究

Body mass index and the risk of incident functional disability in elderly Japanese: the Ohsaki Cohort 2006 Study

2016 年 Medicine 発表

BMI と要介護発生リスクの関連は、原因疾患によって、高いリスクとなる BMI の値が異なる

健康寿命の延伸にとって最適な BMI の範囲がどの程度であるか以前から注目されてきました。しかし、BMI と原因別要介護との関連に関する前向きコホート研究の研究報告は見当たらず、エビデンスは限られていました。そこで、高齢者の BMI と原因別要介護の発生リスク（認知症・脳卒中・関節症）との関連を前向きコホート研究である「大崎市民コホート 2006 研究」のデータにより検討しました（図）。結果として、認知症による要介護発生は BMI23 未満の者でリスクが高く、関節症による要介護発生は BMI29 以上の者でリスクが高くなっていました。しかし、いずれの原因疾患別リスクでも BMI が 23-29 の者ではリスクが有意に高くならなかったことから、BMI が 23-29 であることが高齢者の介護予防のための最適な範囲である可能性が示唆されました。



研究のデータについて

本研究は、2006 年 12 月に実施した大崎市民健康調査のデータを用いて分析を行いました。大崎市民健康調査は調査開始時点で 65 歳以上であった住民 31,694 名を対象にアンケート調査を実施し、23,091 名から有効回答を得ました。本研究ではこのうち、要介護認定の情報提供に非同意の者、ベースライン時に要介護認定を受けていた者、身長・体重のデータが欠損であった者、BMI の範囲が外れ値 (<0.1% 及び >99.9%) であった者などを除いた 12,376 名について分析を行いました。追跡期間は 5.7 年間で、2,279 名の要介護発生がみられました。

BMI の範囲について

BMI の範囲を 6 つのグループ (<21、21-23、23-25、25-27、27-29、 ≥ 29) に分けました。このうち、BMI の範囲が 25-27 の者を基準群として、要介護発生との関連を検討しました。

他のリスク要因の影響について

性別や年齢、既往歴、喫煙といった生活習慣などの交絡の可能性を考え、この研究では、性、年齢、既往歴（脳卒中、心筋梗塞、糖尿病、消化器疾患、がん）、教育、喫煙、心理的ストレスの要因について偏りが生じないように統計解析を行いました。

研究の特徴と限界について

この研究の特徴は、（１）世界で初めて BMI と原因別要介護発生リスクとの関連を示した点、（２）一般住民を対象とした大規模コホートデータを用いた点、（３）様々な交絡因子を考慮した解析を行っている点があげられます。一方で、この研究の限界は、（１）BMI の情報が自己申告であった点（２）より高度な肥満（BMI > 35）の対象者が少なく、より高い BMI と要介護発生との関連を反映できていない点があげられます。
